

令和二年度

日南市読書感想文・読書感想画
コンクール入賞作品集

第十二集



主催 日南市教育委員会
協賛 株式会社ニチワ

はじめに

日南市第十二回読書感想文・読書感想画コンクールに応募してくれた児童・生徒のみなさん、本当にありがとうございました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で不安な日々を過ごす中にもかかわらず、多くの作品の応募がありました。みなさんが、日頃から本に親しんでいることをうれしく思いました。

本を読んで、感動したり、共感したり、時にはなぜだろうと思ったりしたのではないでしょうか。そんないろいろな感情や考えを今回、印象に残った一冊の本への思いとして感想文や感想画で表現しました。心動かされたこの一冊の本は、みなさんを心豊かにしてくれる、とても大切な友達です。

このコンクールを通して、みなさんが大切な本と出会うきっかけとなり、これからもたくさんの本を読んで健やかに成長することを心から願います。

終わりに、本コンクールを実施するにあたり、御協賛いただきました株式会社ニチワ様をはじめ、指導及び審査に際して多大な御尽力をいただきました学校関係者の皆様に対しまして、心からお礼申し上げます。

令和二年十二月

日南市教育長 都 甲 政 文

読書感想文コンクール目次

【小学校一年生の部】

金賞 「はなちゃんのみそ汁」をよんで

鵜戸小中学校 塚本 帆来 . . . 7

【小学校三年生の部】

金賞 なきむしにかんぱいを読んで

吾田東小学校 船ヶ山 絢音 . . . 15

銀賞 もし宿題をわすれたら

桜ヶ丘小学校 笠 美彩都 . . . 17

銅賞 ねこと王さま

北郷小中学校 甲田 星南 . . . 19

【小学校二年生の部】

金賞 ゆめをかなえたい

南郷小学校 日高 紗衣 . . . 9

銀賞 「しゅくだい」を読んで

吾田小学校 岩下 愛佳 . . . 11

銅賞 とめようプラスチックわく星・地きゆう

飢肥小学校 山田 珠緒里 . . . 13

【小学校四年生の部】

金賞 この本がぼくに教えてくれたこと

吾田東小学校 後藤 大智 . . . 21

銀賞 ツェねずみが教えてくれたこと

南郷小学校 橋本 凜音 . . . 23

銅賞 友達の大切さ

大堂津小学校 磯崎 絆 . . . 26

【小学校五年生の部】

金賞 未来の僕へ

飫肥小学校 水永 瑛人 . . . 28

銀賞 夜やってくる動物のお医者さん

大堂津小学校 森 柚奈 . . . 30

銅賞 七千万分の二

吾田小学校 肥田 康佑 . . . 33

【小学校六年生の部】

金賞 「ヒロシマのうた」から

大堂津小学校 滝瀬 由梨 . . . 35

銀賞 十年の時の重み

大堂津小学校 黒木 康生 . . . 38

銅賞 「月と珊瑚」を読んで

南郷小学校 田中 碧人 . . . 40

【中学校の部】

金賞 君の臍臓を食べたい

飫肥中学校 二年 日高 香蓮 . . . 43

銀賞 夢を叶えるために大切なこと

日南学園中学校 一年 狩俣 あい梨 . . . 46

銅賞 「本当の幸せとは何か」

日南学園中学校 二年 齊藤 咲花 . . . 52

読書感想文入選作品名一覧 . . . 52

読書感想画コンクール目次

【小学校一年生の部】 55

金賞 くまくまパン

鵜戸小中学校 濱田 一華

銀賞 とうさんはタツノオトシゴ

細田小学校 森 雫月

銅賞 まほうのさんほみち

桜ヶ丘小学校 藤本 友美

【小学校二年生の部】 56

金賞 どんぐりむらのぼうしやさん

鵜戸小中学校 坂元 海音

銀賞 まゆとおに

細田小学校 楠原 幸歩

銅賞 エルマーのぼうけん

吾田東小学校 川崎 央稀

【小学校三年生の部】 57

金賞 いなばのしろうさぎ

北郷小中学校 中津 凜星

銀賞 ブレーメンのおんがくたい

吾田東小学校 佐渡 銀星

銅賞 やんばるの少年

南郷小学校 岩切 姫花

【小学校四年生の部】 58

金賞 赤毛のアン

飢肥小学校 川添 佑珠

銀賞 ヤマネコとウミネコ

鵜戸小中学校 中原 咲和

銅賞 エルマーとりゅう

潟上小学校 大田川 遙希

【小学校五年生の部】

・・・・・・・・・・ 59

読書感想画入選作品名一覧・・・・・・・・・・ 61

金賞 きょうしつはおばけがいつぱい

読書感想画の審査を終えて・・・・・・・・・・ 62

飫肥小学校 鬼束 凜音

銀賞 十五少年漂流記

審査員氏名一覧・・・・・・・・・・ 64

飫肥小学校 甲斐 凜和

銅賞 あぐり☆サイエンスクラブ・春

吾田小学校 後藤 彩綾

【小学校六年生の部】

・・・・・・・・・・ 60

金賞 チョコレート工場の秘密

飫肥小学校 田原 実奈

銀賞 炎の風吹け妖怪大戦

飫肥小学校 石山 将

銅賞 テレビのむこうの謎の国

酒谷小学校 中村 美貴

読書感想文入賞作品

【小学校一年生の部】

金賞

「はなちゃんのみそ汁」をよんで

《講評》

鵜戸小中学校 一年 塚本 帆来

家族で読書を楽しんでいることがよく分かる感想です。

お母さんに読んでもらい、感じたことや思ったことが素直に表現できています。

これからも自分でいろいろな本を読んでもみるといいですね。

ぼくは、この本がいい本とおもったので、おかあさんによんでももらいました。

この本は、はなちゃんがおかあさんから、おみそ汁のつくりかたをおしえてもらって、おかあさんがしんだあとに、おとうさんに、みそ汁をつくってあげるおはなしです。

おかあさんが、なくなって、とてもかわいそうとおもいました。てんごくでおかあさんは、はなちゃん、みそ汁できてるかなとおもっているとおもいました。

はなちゃんが、おみそ汁をおとうさんにつくってあ

げて、できるんだなとおもいました。

るといいなとおもいます。

おかあさんにおしえてもらっているときに、じぶん
はできるぞとおもって、いっしょうけんめいに、れん
しゅうしたから、できたとおもいました。

読んだ本「はなちゃんのみそ汁」

てんごくで、おかあさんは、はなちゃんがおとうさ
んにおみそ汁つくってあげれてよかったねとおもって
いるとおもいます。

はなちゃんは、そらを見て、おかあさんに、おうち
のことはわたしにまかせてねといっているとおもいま
す。

ぼくも、はなちゃんのように、いえをきれいにした
いです。そして、かぞくをたいせつにしていきたいで
す。

ぼくは、いつのひか、はなちゃんのおかあさんが、
びょうきをなおして、てんごくからかえってきてくれ

【小学校二年生の部】

金賞

ゆめをかなえたい

《講評》

南郷小学校 二年 日高 紗衣

読書を通して思ったり感じたりしたことが自分のこ

とばで素直に表現されていました。

どの感想文からも読書の楽しさがよく伝わってきました。

すばらしい感想文ばかりでした。

これからもたくさんの本を読んでゆたかな心を育て

てください。

この本は、よびだしが好きな男の子が、一生けんめ

いがんばってよびだしのしごとをし日本一を目ざすお

話です。さいしょに本のひょう紙を見た時、男の子が

よびだしをするのがかっこよかったので、この本をえ

らびました。

男の子は、せんすをひろげて、おすもうさんの名前

をよびあげるのがかっこいい、と言っています。わた

しも、家でおばあちゃんといっしょにすもうを見てい

る時、よびだしがきはきと言っているのをすごいと

思っていました。だから、わたしは、男の子がよびだ

しになりたいりゆうが、よく分かりました。

そつぎようしてすもうべやに入った時、よびだしとして一生けんめいがんばっていました。よく一人でできるなど、わたしはびっくりしました。わたしだったら、一人でりょうりも作れないし、おしごとでもできないと思います。朝げいこを見にきなさいと言われた時、ごつつあんですとまねができる力をもっているから、一人でできたのかなと思いました。

おもしろかったところは、おすもうさんとねてた時に、おすもうさんがいびきをしてねむれなかったところでした。とつてもわらってしまいました。

わたしも、五さいのころからずっと、ほいくえんの先生になりたいと思っています。よびだしみたいに、大きな声で楽しく、目ひようにむかっけていきたいです。

「日本一のよびだし」になりたいと言っているのを

見て、わたしも、そのじしんをまねして、ほいくえんの先生のしごとをやっけていきたいと思います。

読んだ本「おれ、よびだしになる」

銀賞

「しゅくだい」を読んで

吾田小学校 二年 岩下 愛佳

わたしは、「しゅくだい」という本をえらびました。りゆうは、なにがしゅくだいか気になったからです。

わたしの学校のしゅくだいはかん字ノート、プリント、ひとことにつき、おてつだいです。もぐくんのしゅくだいは、だっこでした。「やだー。」と言っていたけど、かえる時はうれしそうににこにこしてジャンプしてかえっていました。もし、わたしのしゅくだいだっこだったらなんだろうと思います。そして、少しはずかしいと思います。

もぐくんがかえってしゅくだいのことを話そうとすると、おかあさんは聞いてくれませんでした。もぐく

んは聞いてほしかったと思います。おかあさんが、赤ちゃんばかりでもぐくんにかまってくれないからかわいそうでした。

でもそのよる、もぐくんはずかしそうに、「だっこ」言いました。もぐくんがだっこしてもらった時、ねむっているみたいだったり、にこにこしていたりしました。いっぱいしゅくだいをしてぐっすりねむっているもぐくんが気もちよさそうで心のこりまりました。

わたしの家にも一さいのおとうとがいます。おとうとはよくだっこされています。それを見てわたしは、うらやましいなと思います。でもわたしはだっこがいにもたのしいことを知っています。たとえばいっしょにぬいものや人生ゲームであそぶこと、いっしょにカレーやスパゲティをたべることです。そのほかにもいっしょにコープやコスモスに出かけることです。

こんなしゅくだいもあるといいと思います。

読んだ本「しゅくだい」

銅賞

とめようプラスチックわく星・地きゅう

飢肥小学校 二年 山田 珠緒里

「どうしてすなはまに、せんざいのごみがおちているのかな。」

家ぞくで海水よくに行った時に思いました。

私は、海とごみのことをしらべたくなくて、見つけ

た本が、「プラスチックわく星・地きゅう」です。

この本には、人間がすてたプラスチックごみのせいでこまっている生きもののが書いてあります。

森も川も海もごみばこの中みたいですよ。

この本の中で、「どうしてかな。」と思う言ばが一つありました。それは、「プラスチックをこのよからなくすことは、できないかもしれない。」というところで

す。

「そんなになくせないかな。」とあって、家ぞくみんながよくつかうリビンをかんさつしてみました。プラスチックのものがたくさんありました。「本当だ。どれもつかうものばかりだから、なくせないなあ。」と思いました。その時に、思い出しました。私は、毎朝牛にゆうをのむ時に、ストローをつけています。のみやすいからです。

私は、しょう来じゅういしになって、生きものをたすけたいと思っています。でも、私がつかっていたものが、大好きな生きものをくるしめているかもしれないせん。

むねのところギョツとなって、かなしくなりました。

私が、もしも魔法つかいだったら、ごみをくだもの

の木や海そうにへんしんさせるのになあ、と思いました。でも、そんなことはできません。だけど、一つでもごみをへらすことは、私にもできます。

私は、次の日の朝から、ストローをつかうのをやめました。

私は、この本を読んで、ごみをへらす方法をもっともっと見つけて、やっつていこうと思いました。

読んだ本「プラスチックのうみ」

【小学校三年生の部】

《講評》

登場人物の言動を通して気付いたり感じたことを素直に表現していました。

豊かな感性に感心しました。また、読書から学んだことを自分の生き方に活かそうとする決意が感じられました。

金賞

なきむしにかんぱいを読んで

吾田東小学校 三年 船ヶ山 絢音

わたしがこの本を読もうと思ったのは、しっぱいにかんぱいと言う本を読んでみんなしっぱいをくり返し

て生きると言うことが分かったので、かんぱいシリーズで新しくほかにも何か知ることが、あるのかなと思っただけです。

主人公のさきちゃんは、小学三年生の女の子です。ねつを出しえんそくに行けなくなったさきちゃんはなきながらねむってしまいます。この話は、そのすがたを見守るおへやにおいてあるおかめとひよつとこのお面がうつしだすさきちゃんのせいちょうのきろくです。

わたしが気になった場面は、さきちゃんがほいくえんのころおばあちゃんが帰ろうとするとなきだしてしまふ場面です。この場面が気になった理由はわたしがようちえんのころさきちゃんと同じようにお母さんが帰ろうとすると、すぐになきだしていたと言っているのを聞いたからです。わたしはお母さんからはなれる

のがいやで、ないていたけどさきちゃんはどんな気持ちでないていたのか、知りたいです。

わたしが気になった場面がもう一つあります。さきちゃんが目をさまし、体温計でねつを計ると六度五分でねつがさがっていたためおじいちゃんが

「えんそくをはじめよう。手をあらっておいで。」

と言っていた場面です。この場面をえらんだ理由はおじいちゃんがやさしくはげますように言っているのが感動したからです。自分が同じように言ってもらったら自分をおうえんしてくれる人がそばにいるんだなとほっとするような気もちになります。だから、おじいちゃんがこのように言っている場面はじゅうような場面だと思います。また、この場面でわたしはさきちゃんがとった行動で、すばらしいと思った出来事があります。それはねつがさがってもえんそくに行こうとします。

なかったし、ふつうだとうそをついてむりやりえんそくに行く人だっているのに、さきちゃんはずこしうそをついたけどさいごはきちんとして行かなかったことです。もしさきちゃんがえんそくにいつていたら、みんなにめいわくをかけて友だちもねつがでるところだったかもしれないです。自分のことだけではなく人のことも考えられるさきちゃんがすばらしいと思います。

この本を読んでわたしは人へのやさしさやきづかいそしてこれからの自分が見えてきました。わたしもさきちゃんみたいにすばらしい行動やほかの人にすこしでも気もちをあわせれるような人になりたいです。

読んだ本「なきむしにかんぱい」

銀賞

もし宿題をわすれたら

桜ヶ丘小学校 三年 笠 美彩都

「どうしてそんな事をどうどつと言えるの。」

この本の題名を初めて見た時、私はびつくりしました。宿題は、毎日あたり前にする物だし、もし、私がわすれたら、泣きそうな小さい声で先生に言うかなと思つたからです。

このお話は、ゆうすけを始めに、みんながじゅん番に宿題をわすれていって、しまいには、先生まで宿題を作るのをわすれてしまうお話です。先生が、

「ウソつくならすぐばれるようなのはだめだよ。もつとばれないようなので、それから、聞いた相手が楽しくなるようなのじゃなくちゃ。」

と、言つたので毎日毎日、だれかが宿題をわすれては、毎日毎日わすれた理由を話すようになりました。

とくに、面白かつた場面は、宿題をしようとしたら、計算ドリルの数字がうき上がつてダンスをしたら、式が読めなくなつたと、理由を話したところです。文字がおどるなんて、と思つて、本の字をじつと見つめました。でも、おどりませんでした。

一番おどろいたのは、先生も宿題を作るのをわすれていたということです。先生なのに、みんながする宿題を作るのをわすれていたから、私の先生も、宿題を作るのをわすれてくれないかなあと、ちよつぱり思つてしまいました。

もし、自分のクラスだったら…と、考えてみました。考えるだけで、みんながどんな理由を言うかなあとかわくわくしてきました。でも、私はしゅっせき番号

が最後なので、理由が思いつくかなあと心配になってきました。

ちゃんとやろうと思います。

私なら、どんな理由を言うか考えてみました。

読んだ本「先生しゅくだいわすれました」

「宿題全部終わったのに、くいしんぼうなパパの口にすいこまれていきました。」

と言ってまっさらなプリントを出そうかな。

家ぞくともどんな理由を言うか話してみました。犬に食べられた、アメリカから帰ってきたばかりだから、他の人のプリントに字がひっこしてしまっただから、プリントが夜中にかけてにゴミしよりセンターにとんでいったから、などおもしろい理由がたくさん出てきました。もし、本当にそうだったら…考えるだけで楽しくてわらってしまいました。

でも、宿題をわすれてこんな理由を言うゆう気は、やっぱりありません。だから、これからも宿題は毎日

銅賞

ねこと王さま

北郷小中学校 三年 甲田 星南

「何でバスにねこがのってるの?。」と

はじめて見た時に思いました。おしろにいますイメージの王さまがバスにのっていて、ふしぎな本だなあと思つて読んでみる事にしました。

この本のお話は、おしろに住んでいるねこと王さまが、うんのわるい出来事でおしろを出て、小さな家にねこと住むお話です。

わたしのイメージの王さまは、おしろに住んでいて、めしつかいたちにめいれいをしているイメージです。王さまは、何もしなくても、めしつかいに、ごはんを作ってもらったり、せんたくをしてもらったり、

そうじをもらっていて、うらやましいなと思います。王さまの仕事は、赤いじゅうたんの上を歩いたり、おいしい事の時は、テープカットをしたりすることです。わたしにもできる事だなと思いました。うんのわるい日に、ドラゴンがおしろをもやしてしまつて、小さな家に住む事になりました。あんなに身の回りの事ができない王さまが、きちんと生活ができるのだろうかと思いました。やはり、何もできませんでした。家のカギでドアを開ける事さえできませんでした。わたしでも、できるのと思つてわらつてしまいました。おしろで一しよだったねこがたすけてくれました。ほかにも、買い物に行く時に、車のうんてんをしたり、ごはんを食べ終わった後に、食きをあらつたりとたすけ合つて生活をしていました。

何もできない王さまだけど、この頭のいいねこは、王さまを楽しませようと考えます。おしろに住んでいたころの王さまと、小さな家に住んでる時の王さまをくらべたら、元気がなくて、かなしそうにねこは感じ

人を楽しませる事ができて、思いやりのある人になれたらいいなあと思いました。ねこと王さまは、ベストコンビだなあと思いました

読んだ本「ねこと王さま」

て、パーティーをする事にしました。そんな、アイディアを出すねこがすごくやさしいなあと思います。わたしは、人のおせわをするのはすきだけど、このねこみたいに、アイディアを出す事は、できないと思います。とても王さま思いな考えだなあと思います。

わたしの、お父さんとお母さんは、生き物を育てる仕事をしています。休みがありません。でも、イヤな顔をせず、楽しそうに毎日仕事をしています。どこかに、思いやりのあるねこがいるのかな？と思いました。わたしも、この本の中に出てくるねこみたいに、

【小学校四年生の部】

金賞

この本がぼくに教えてくれたこと

《講評》

吾田東小学校 四年 後藤 大智

選書のきっかけ、その本と出会った時のワクワクした気持ち、しっかり書いていました。

（ねこと王様で一体何をするのかな。どっちが主人公

読書を通して、自分がどのように考え方を変えよう

なんだろう。）

としているか、根拠を示しながら述べてあり、すばらしいと思いました。

これは、「ねこと王様」の題名を見た時、ぼくが最初に思ったことです。どんな話が待ち受けているのかわくわくしながら読み始めました。

この話には、題名にあるように、ねこと王様が登場します。仕事ができる十二人のめしつかいも登場しますが、王様が住んでいたお城が焼かれ、十二人のめしつかいはお城から出て行ってしまいます。お城に取り残された王様とねこは家をさがし始めました。家が見つかり、スーパーマーケットで食料や家具を買いま

した。この話は、ごうかなお城を失った王様が、ねこ
と力を合わせて家をじよじよに完成させていくお話で
す。

この本は、ぼくに大切なことを二つ教えてくれまし
た。

一つ目は、悲しい出来事が起きても、立ち止まらず
次の行動にうつすことの大切さです。王様は、何でも
そろっているお城が焼かれても、すぐにねこといっし
よにこれから住む家をさがしに行きました。家が見つ
かると、となりの家の人を自分の家にしようたいしま
した。もし、ぼくが王様だったら、何でもそろって
いるお城を焼かれたら、そのことをずっと引きずって立
ちなおれないと思います。前向きに生きようする王様
をそんけいします。

二つ目は、友情の力です。家が焼かれた後、王様と

ねこはばらばらにならず、いつもいっしょに行動をし
ながら家を完成させました。一人だったら、ここまで
できなかったと思います。ぼくも同じような思いをし
たことがあります。ぼくは、水泳大会で二百メートル
を泳ぐことになりました。スタートダッシュは成こう
し、

(このままのいきおいでいこう。)

と思っていました。後半どんどんつかれてしまし
た。そのつかれが最大に達し、

(もう無理だ。)

とあきらめかけたその時、

「がんばれ。」

という声がかすかに聞こえてきました。すると、さつ
きのつかれがうそのように足と手が動き始めました。

自己ベストをこうしんすることができました。あのお

うえんがなかったら、ベストタイムを出すことができなかったと思います。

このお話には、主人公が二人いました。二人のように、これからは、悲しい出来事があっても王様たちのように友達と力を合わせて前向きに生きていきたいです。王様とねこのようにおたがいのことを思いやれることができるような友達をこれから見つけていきたいと思っています。

読んだ本「ねこと王さま」

銀賞

ツエねずみが教えてくれたこと

南郷小学校 四年 橋本 凜音

「ツエねずみ？何だろう。」と思ってこの本を選びました。しかも、作者を見ると聞いたことのある宮沢賢治さんでした。私は、とてもびっくりして早く読みたくなりました。

このお話は、「ツエ」という名前のねずみが出てきます。（ああ、「ツエ」というのはねずみの名前だったんだ。）と読み始めてすぐ分かりました。

読み進めていくと、ツエねずみにいたちがこんぺいとうのある場所を教えます。しかし、先にあり達が来ていて、ツエねずみは、こんぺいとうを食べることができませんでした。ツエねずみはだまされたとかんち

がいして、いたちに

「まどうてください。」

と、何度も言います。(ちがうよ。かんちがだよ。)とツエねずみにさげびたくなりました。

その後も同じように、色々な道具に優しくされたのうまくいかないと相手のせいにしてしまいます。結果、だれも優しくしてくれなくなり、最後に仲良くなつたねずみとりもおこらせて、つかまるというお話です。

(そんなに人のせいにしたらだめだよ。優しくしてくれた友達がかわいそうだよ。)と少し切なくなりました。

やっぱり、自分を「弱い者」と決めつけて言い訳したり、人の優しさを分かんずにかんちがいをして、自分勝手に行動すると友達や信らいできる人がいなく

なることが分かりました。

こういう人達を、私はテレビのニュースで見たことがあります。

例えば、あおり運転などのきけん運転です。あおり運転も、本当はぬかしたかっただけなのに、あおられたとかんちがいして車をぶついたり、ぼう力をふるったりという問題を起こしたんじゃないかなと私は考えました。

他にも、店員さんに文句を言っている人や、自分が悪いのに、言い訳ばかりして反省しない人など、ツエねずみの様な人はたくさんいるなど改めて思いました。(ツエねずみというお話をもっと多くの人に読んでほしいなあ。)と思います。

私自身も、ツエねずみの様にはなりたくありません。そのためには、相手の気持ちを考えて、感しゃの

気持ちもわすれずにだまされたと思っても一回、考えてみて、しっかりとほんだんできる様な人になりたいです。

読んだ本「ツエねずみ」

銅賞

友達の大切さ

大堂津小学校 四年 磯崎 絆

友達から友達へ何をするのかな。ぼくは、続きが気になるなど思ったので、「ともだちからともだちへ」を読み始めました。

ぼくはコウモリくんが、

「きみがぼくのともだちなら、もっとはやくあいにきてくれたってよかったじゃないか。かえってくれないよ。」

この、言葉がぼくの心に一番のこった言葉です。ぼくは、たしかにはやく来てほしい気持ちはわかるけど、ぼくはせっかく来てくれたともだちにそんなひどいことをいうなら、ともだちじゃないと思いました。

本当は、もっとやさしい言葉でともだちが来たら、

「いらっしやい。ゆっくりしてってね。」

と、やさしい言葉をかけるべきじゃないかなと、ぼくは思いました。

そして、ぼくは、もしかしたら、このコウモリくんのように、どこかで、きつい言葉や、相手がいやがるかもしれない言葉を、使っていないかと感じました。

一学期に、ぼくたち四年生は国語のじゅ業で、新聞作りをしました。四人グループで、新聞を作ったのだけれど、自分たちの意見を通したくてけんかみたいないやなふんいきになってしまいました。それは、相手のことを考えずに自分の意見を言ってしまったからだと思います。

この本の主役のクマネズミくんが、家に帰って考えたことに対してぼくは、クマネズミくんがすばらしい

など思いました。それはおこっているコウモリくんにだけとくべつな手紙をわたしたことです。コウモリくんにゆるしてほしいなと思いつながら書いた手紙じゃないかなと思いました。

そして、中には、

「コウモリくんへきみはすてきなともだちです。きみとともだちになれてほんとうによかったと思っています。きみはたいせつなたいせつなともだち。それをつたえたくててがみをかきました。またね。」

と、書いていました。ぼくは、こんなに気持ちがかもった手紙ならきつとコウモリくんも元気になるんじゃないかなと思います。

ぼくは、この本はともだちとの関係を教えてくれるすばらしい本だと思います。

自分の思っていることを言うことも大切だけど、と

もだちのことを思って言葉を言うことが大切です。

ぼくには、たくさんのともだちがいます。ともだちと、楽しくすごすためにも、相手のことを考えて、声をかけたり、やさしくせつしてあげたいなと思いました。

ぼくも、クマネズミさんを見ならって、行動できる人になりたいと思いました。

読んだ本「ともだちからともだちへ」

【小学校五年生の部】

金賞

未来の僕へ

《講評》

飢肥小学校 五年 水永 瑛人

最初に、本を読んだきっかけが書いてあり、どれも興味深く読みました。

次に本のあらすじとともに、筆者が心に残ったことや感心したことなどが述べてあり、それが読者に伝わってきました。

そして、最後には、本から学んだことから、将来に向かったの願いや抱負が書いてあり、頼もしく思いました。

僕が今まで読んだ本の中でどの本が好きかと聞かれ
たら、一番に宗田理さんの「ぼくらの七日間戦争」と
答えます。家族と本屋に立ち寄ったとき、目に付いた
この本が面白そう読んでみたくなり、買いました。
シリーズも家の近くの図書館で借りて最後まで読んで
みました。

この本の面白いところは、中学一年生のクラスの男
子生徒ほとんどが家出をして廃工場に立てこもり、大
人達へのはん乱を起こすところです。ラジオを使って
大人へのメッセージを放送したり、大人が説得に来た
ら廃材で仕掛け迷路を作ってむかえうったり、よくこ

んなことを思いつくなど感心しました。立てこもりに参加していない同級生の女子達とトランシーバーで連絡を取りながら、誘かい事件や選挙の不正事件も解決していきます。携帯電話やパソコンが普及していない時代の話ですから、仲間同士で連絡を取り合うのも簡単ではありません。それぞれがもっている知識を生かして行動したから次々に起こる課題を解決出来たのだと思います。大人は、子どもは出来ないことがたくさんあると思っているし、子どももそう思い込んでいるのかもしれませんが。初め僕は、この本は大人への反抗を書いているのだと考えました。大人を困らせるのが面白いと思っていましたが、読んでいくうちに、登場人物達が作戦を立てながら、とても元気になっていくことに気が付きました。差し入れをしたり、知恵を貸してくれたり、こっそり応援してくれた大人たちも楽

しそうでした。みんなで何かをするのが楽しかったのだと思います。

僕は、五年生になって学校の運営委員会に入りました。振徳音楽祭に向けて、寿太郎侯音頭のダンス振り付けや寿太郎侯の劇の練習を始めています。運動会をもっと楽しくするためにマスケットキャラクターの原画を募集して全校児童の総選挙で選ぶ企画もしています。これは、今まで、僕の学校にはなかったもので、立ち上げて二年目です。昼休みに時間がある運営委員が集まってきて、

「今の計画で心配なところがあるんだけど。」

「そのときは、こうしたらいいんじゃない。」

と話合いをしています。遊ぶよりこっちの方が楽しくなったと話す人もいます。僕も、その一人です。僕の間を僕が楽しいと思うことに使えて幸せだと思います

す。

でも、最近、僕の考えが大人と違うことが出てくるようになりました。主人公達のように自分の将来に関するような課題で大人と意見が違ったら、どうしたらいいのかなと思います。楽しいだけでは、解決できないのかなと悩みます。未来の僕は、「ぼくらの七日間戦争」に今の僕と同じような感想をもちますか。将来、未来の僕と会えたら話してみたいです。

読んだ本「ぼくらの七日間戦争」

銀賞

夜やってくる動物のお医者さん

大堂津小学校 五年 森 柚奈

私がこの本を選んだわけは、じゅう医の仕事にきょう味があつたのと、夜やってくるという所に読んでみたいと思ったからです。私は、動物が大好きで、動物のし育体験の経験もあり、しょう来、動物に関わる仕事につきたいと思っています。この本は、梅原英輝さんという人が夜に病気になったペットの家に行っしんさつする動物のお医者さんのお話です。夜に仕事をする梅原先生の一日はとても大変で、夜の八時からしんさつを始めて家に着いたのが朝の六時。七時に家族と夜ごはん（家族は朝ごはん）それからカルテの確しん、薬の注文などの仕事をします。十一時までには子ど

もと遊んだり読書をしたりして自由にすごします。二時間仮眠をとって午後一時にごはん。後はしゅうしん時間。夕方五時に起きて薬の受け取りや往診じゅんびなどで家で働き夜は往診。朝と夜が逆になった生活を毎日送っているそうです。日曜や祝日もしんさつしているのでふつうの動物病院が休みのゴールデンウィークやお盆休み、年末年始は大いそがしです。私はまず、どうしたら梅原先生のようにじゅう医師になれるのか調べてみました。じゅう医学部がある学校へ行き六年間動物の病気を治す勉強をします。動物の体のしくみや病気の原因となるばい菌の事、治りよう法、薬の事などを学ぶそうです。そしてじゅう医師になると働く場所が色々ある事も分かりました。動物病院だけでなく、牛や馬、ブタ、にわとりなど「家ちく」のお医者さんになる人もいるそうです。そして動物園や水

族館など動物に関係するし設につとめる事もできるそうです。梅原先生はベテランの先生ですが、場所によっては、思うような治りようの効果があらず、容体が急に悪くなって亡くなってしまふこともときどきあるそうです。しかし、それでもよくよしないで失敗を次に生かすしかないと思ひ直し、また元気に往診に出かけていきます。ペットを相手にする梅原先生の仕事は、毎日が「発見」と「反省」のくり返しだそうです。言葉を話せないペットを診察する事は私達が思っている以上に大変なお仕事なんだと思いました。ただ動物が好きだけでは、できない仕事だという事も分かりました。私もずっと家で犬をかってみたいと思っていました。でも、この本を読んで犬を一ぴきかう事は病気になった時の事や毎日のお世話の事を考えると、かわいだけじゃかってはいけないと思います。と中

でかえなくなつて捨てられてしまう動物をテレビで何
度も見た事があります。命を大切にしたいです。これ
からもたくさん本を読んでしよう来どんな仕事につ
きたいのかや動物の事をもつともつとくわしく知りたい
と思います。

読んだ本「夜やってくる動物のお医者さん」

銅賞

七千万分の二

吾田小学校 五年 肥田 康佑

ぼくが、この本を読むことになったきっかけは、「ともだちのしるし」の「しるし」って何だろうと気になったからです。

この物語の主人公リナは、なん民キャンプにいらしています。救えん活動家の人達が古着を分けてくれたとき、リナは、片方だけの黄色のサンダルをつかみ取りました。そのサンダルのおかげで、フェローザと出会い、仲を深め、最後には、リナがアメリカへ行ってしまうという話です。

はくがいをおそれて、自分の国からにげる人を「なん民」といいます。と作者あとがきに書かれてありま

した。日本は、島国なので、なん民が身近ではないと思います。今、世界には、なん民が七千万人を超え、過去最多となったとインターネットに出ていました。

ぼくが一番心に残ったことは、「サンダルを一日交代ではこうよ。」とリナが言った場面です。その理由は、サンダルを交代ではなく事をぼくなら思いつかないし、交代する事をもめたりもするのに、すぐ決まったからです。しかも、そのサンダルが「ともだちのしるし」の「しるし」でした。

もし、ぼくがリナなら、やっとなつかみとったサンダルを、「ふたりのものだよ」や「交代ではこう」と、やさしい言葉は出ないと思います。そんなやさしいリナだから、フェローザと深いきずなできたのかなと感じました。

ぼくは、この本を通して、物やお金がなくて貧しく

でも、心が優しいと、何ものにもかえがたい、友情や
きずなが、できるのかなと思いました。

ぼくは、コミュニケーションを取るのが苦手です。

例えば、だれに対しても、はずかしくて自分の思っ
てることをなかなか言えません。だから友達も少ないで
す。そのコミュニケーションをうまく取るためには、
いきなりは無理だから、最初は、家族の前で、はずか
しがらずに少しずつ、自分の思ってる事を言ってい
きたいと思います。家族に言えるようになったら、次は
学校で友達や先生に、その次には、知り合いの人達
と、どんどんコミュニケーションをとっていきたく
い

す。
ぼくは、英会話を習っています。しょう来英語が
できるようになったら、他の国々へ行きたいです。例
えば、なん民の人達とコミュニケーションをうまく取

ていきたいです。そのなん民のくわしい気持ち、生
活、じょうきょうなどを、たくさんの人に理解してほ
しいです。

読んだ本「ともだちのしるしだよ。」

【小学校六年生の部】

金賞

「ヒロシマのうた」から

《講評》

大堂津小 六年 滝瀬 由梨

選書に至るまでの自分の気持ち、学習の成果からのアプローチ等が、しっかり書かれてありました。

読書から得られた新たな考え方を自分の言葉でしっかり述べてあり、さすが最高学年の感想文であると感じました。

今年もまた、八月六日の朝八時十五分、私の町にもサイレンが鳴り響いた。七十五年前のこの日、広島に原子爆弾が落とされた。遠い昔に、日本が戦争をしていたことは、知っているけれど、私には戦争の記憶はない。戦争の体験談を聞いたのは、社会科の憲法の学習での一度きりのことだ。

あらためてこの夏休みに、戦争の悲しさについて知りたい、考えたいと思った。そこで、「ヒロシマのうた」を読むことにした。実は、私が小学一年生の春休みに家族と広島へ旅行した。その時に原爆ドームを見ている。だが、その時は、原爆の事がよく分からず、

(なんでこんなにドームはボロボロ。どうして修理しないの。)

と私は不思議に思っただけだった。「ヒロシマのうた」を手に取り、読み進めると、と中で胸がいつぱいになった。私が一年の頃に見た広島は、にぎやかで原爆ドームの周りには草木が生え、きれいな建物が建っていた。とてもではないが、七十五年前のことを考えられない。このきれいな広島が、一瞬でなくなり、ガレキにあふれ全てが黒こげとなり、やけただれた人間が重なり合いうめき声をあげていたとは…。

物語に出てくるミ子ちゃんのお母さんは、原爆にあり、後頭部から背中にかけて皮ふがずりりとむけるほど大やけどをした。想像するだけでも痛そうで叫びたくなる。このお母さんは、何か悪いことをしたのだろうか。何のつみもないのに、死ななければならぬこ

とにとても腹が立った。ミ子ちゃんだって、本当のお母さんを知らずに生きていかなければならないのだ。

私がおもひミ子ちゃんだったら、お母さんに会えずに生きることはつらく戦争をうらむと思う。だけど、ミ子ちゃんことヒロ子ちゃんは、人をうらむとか戦争をうらむこともなく、受け入れて成長していると思った。なぜなのだろう。戦争でひどいめにあったのに許せた理由を考えた。例えば、人がけんかをしたら腹が立ってやり返す。そうするときりがない。解決しないままだ。だから、誰かがそれを止めて許してあげないといけないのだ。

私は、戦争で多くの命を失うことは、悲しくそう絶なことだと思ふ。だけど、その教訓を生かして二度とやらないと思ふこと、つまり平和主義を守っていくことが戦争から学ぶことかなと気付いた。ヒロシマのう

たが、私に気付かせてくれた。

戦争のしめくくりが原爆であることは、忘れてはいけない事実だ。私は、この事実を生きているかぎり、忘れずに平和のすばらしさを伝え、二度と戦争をしないように願っていく。

ヒロ子ちゃん、ありがとう。

読んだ本「ヒロシマのうた」

銀賞

十年の時の重み

大堂津小学校 六年 黒木 康生

ぼくは、読書は苦手だけれど、今年になって、ステイホームをするようになって、読書の時間が増えました。

そんな時、本屋さんで「十年屋」という本に目がつまってしまうました。

それは、ぼくが思うに、きっと時間に関する物語だと興味をひいたからです。

なぜなら、何となく過ごしている毎日でも時間は過ぎていて、時間の大切さに時々気づいたり、あせつたりしてるからです。

だから、「十年屋」を読んでみる事にしました。

子供のころから大切にしている物。大好きなおじいちゃんおばあちゃんからもらった宝物。大切な友達との思い出の品。「十年屋」は、自分の寿命一年をひきかえにし、大切な物を思い出と同じに、まほうでそのまんなまの状態でも十年の間預かってくれるのです。

十年という時に対して、寿命一年。

迷ってる人に届くふしぎなカードで、選ぶのは自分です。

亡くなったお母さんが、自分の誕生日に、作ってくれたぬいぐるみを、古くなったからと新しい母さんが、捨てようとして、十年屋に預ける決心をした。リリを見てぼくは命はかけたくないけどひきかえに、「十年屋」に預けるであろうとなつとくしました。

もう一人のいらい主は、友達がおとした大切なゆびわを拾ったテアは、友達と一緒に、さがすフリをして

自分のポケットにかくして友達に返す事なく、でも持っているのはツライという事で「十年屋」に預けたのでした。友達のララもまた、テアのおとしたブレスレットを拾って、十年屋に預けてたのには、ぼくもびっくりしました。

二人とも、友達の持っている物が、うらやましく感じたり、輝いて見えたのだと思います。

十年屋に預けた時は、六歳。十年たてば、十六歳になって二人とも預けた時の気持ちや考えが変わっていると思います。

ぼくは、赤ちゃんのころから使っているバスタオルがあります。

何百回も洗たくして、色あせてやぶれたりしています。

でも、そのタオルをぼくは捨てようと思う意思がな

いしそもそも捨てる勇気がなくて、今も洗たくをしてたまに使ったりふいたりしています。

もしも、十年屋に預けて、十年後ぼくは、そのタオルと再会したら、ぼくの気持ちは、どう変わっているのかと考えてみました。

予想は、なつかしさや思い出のことを考えたタオルは、とても大事だと思いました。

寿命一年とひきかえと思ったら、命が大事で、このタオルへの思い出や思いは、きつとぼくの心に大切にしまっていた方がいいと感じました。

読んだ本「十年屋」

銅賞

「月と珊瑚」を読んで

南郷小学校 六年 田中 碧人

ぼくは、「月と珊瑚」という本を読みました。

きつかけは、課題図書タイトルを見たときに、一番気になったからです。本文を読む前に、このタイトルから月と珊瑚は何か関係があつて、実験などをして、月と珊瑚の関係を少しずつ明らかにしていく科学の物語ではないかと思つていました。しかし、実際は沖縄を舞台とした珊瑚という女の子を中心とした子どもたちと、珊瑚の祖母のルリバーの七人のやりとりを日記形式にまとめたお話でした。

この物語を読んで、特に心に残ったところが二カ所あります。

まず、ルリバーの生き方についてです。ルリバー

は、民謡酒場で沖縄の民謡を歌つて暮らしています。

ちんすこうが好きだったり、沖縄の話をするとき表情が輝いていたりしているところから、沖縄が大好きなのは、話の前半で大体わかっていましたが、読み進めていくと、ルリバーが沖縄から大阪に逃げるように引越したことが分かつて、驚きました。

なぜ、ルリバーは大好きな沖縄から引越したのか、ぼくは、昔、沖縄は戦争で地上戦が行われ、命の危険があつたから避難したのかな、と思いました。ところが、ルリバーの母親が夜の町で働いていたことに理由があつたのです。そのために、ルリバーは、周りの人たちから後ろ指を指され、その現実にたえきれずに引越したことが分かりました。

ぼくも、自分に責任のないことで他人から責められ

たり、冷やかされたりしたら、その場から逃げたくなく
ると思います。泣きそうになるとも思います。ですか
ら、ルリバーの気持ちには、とても共感できました。
しかし、ルリバーは、その後再び沖繩にもどります。
また、他人から嫌なことを言われたり、されたりする
かもしれないのに、戻ったルリバーは、すごいと思
いました。

次に、転校生の月（ルナ）についてです。月は、も
ともと有名な女学院にいたのですが、そこを退学にな
って、沖繩の珊瑚たちが通う学校へ転入してきまし
た。

月は、優秀で、テストでよい点数をとった珊瑚にお
祝いのサインを送ってはげましもしたので、ぼくは、
なぜこんな子が退学になったのか、不思議でたまりま
せんでした。

すると、友達に対するちょっとしたかげ口が周りに
知られてしまい、それが原因で退学になったことが分
かりました。ぼくは、このことを知って、少し怖くな
りました。ぼくも時々、悪いとは思いつながら、つい
口にしてしまうことがあります。これからは、心の
中にとどめておこうと思いました。

ぼくは、この物語を読んで、人を大切にする気持ち
を持つこと、他人の悪口を軽々しく口にしてはいけな
いことを学びました。そして、先日道徳でも学習しま
したが、一人一人の「人権」をしっかりと考えたいと思
いました。

読んだ本「月と珊瑚」

【中学校の部】

《講評》

どの作品も作者と読者であるみんなとの心の対話、そして自分自身との対話がよくできていたと思います。つまり、ストーリーの展開のみを楽しむ読書ではなく「考える読書」がよくできていたと思います。

この時空を超えた対話は読書の醍醐味であり、人間だけが獲得している知的作業です。

今回のいくつかの入選作でも取り上げられていた「死」というテーマは、いつの時代でも書き続けられ、大事なテーマでもあります。と同時に「どう生きるなら人生を輝かせることができるのか」という大事なテーマでもあります。

「よく死ぬことは、よく生きることだ」という言葉

があります。是非ともこれからも読書に親しんで「よく生きる」ためのヒントを見つけてほしいと思っています。

最後に、注意してほしいことを述べます。

提出された読書感想文の中には、書き出しが魅力的で、ぐっと引き込まれてしまうような作品がありました。やはり書き出しは大事ですね。でも、せっかく工夫した文章に誤字があったり、雑な字で書いたりしてはもったいないです。出品する時は、推敲を繰り返しましょう。

金賞

君の臍臓を食べたい

飢肥中学校 二年 日高 香蓮

「君の臍臓を食べたい」

私がこの本の題名を初めて見たとき、題名の意味が理解できませんでした。本の表紙は高校生の男女と桜という平和な絵なのに、なぜこんなに怖い題名なのか。しかし、本を読み終わると同時にこの題名の意味を理解した瞬間、とても感動しました。「たったこの九文字に、こんなに深い意味があったのか」と衝撃を受けました。

ある日、高校生の主人公は、病院で「共病文庫」という一冊の文庫本を拾います。その「共病文庫」というのは実は、クラスメイトの山内桜良の秘密の日記帳

だったのです。その本には、桜良の臍臓の病気があること、そして余命が残り少ないことが書かれてありました。その秘密を知ったことにより、主人公と桜良の変わった関係が始まりました。初めは桜良の強引なお願いに嫌々付き合っていた主人公でしたが、時間がたつにつれて少しずつ桜良に心を開いていきます。

私がこの本を読んで心に残った場面が一つ、印象に残ったことが二つあります。

心に残った場面は、桜良の臍臓の病気が少し悪化し入院していたときに、主人公がお見舞いに来た場面で、主人公と桜良がゲームをしていたときに、主人公は桜良に、

「君にとって、生きるってというのは、どういうこと？」

と質問しました。すると桜良は主人公を茶化しながら

も真剣に考えた後に、

「生きるってのはね、きつと誰かと心を通わせるこ

と。そのものを指して、生きるって呼ぶんだよ。」

と答えました。この後に主人公は桜良に、

「本当に君には、いろんなことを教えてもらおう。」

と言いますが、その通りだなと感じました。人との関わりを大切にしている桜良だからこそ、私の心に響く何かがあったし、今まで主人公の目線で読んでいたので、読んでいるだけなのにこの一冊から本当にたくさんすることを学べた気がしました。

印象に残ったことは、主人公の名前が最後まで出てこないことです。主人公の名前は、「秘密を知ってるクラスメイトくん」や「仲のいいクラスメイトくん」、「仲良しくん」という風に、桜良から見た主人公の印象や存在で表されています。最初は「秘密を知ってる

クラスメイトくん」だったのが、中盤になるにつれ

「仲良しくん」になったり、時には「ひどいクラスメイトくん」になったり「?????くん」になったりしており、場面ごとに、桜良にとって主人公がどんな存在なのか、桜良が主人公をどう思っているかがよく分かります。そして終盤、桜良が亡くなってから主人公の名前が初めて明かされます。この名前ではなく、桜良から見た印象や存在で主人公を表すというのは、今まで読んだ本で一度も見ることがありません。このような書き方をすると、主人公が桜良にとってどんな存在なのか、どう思っているのかがよくわかって、とても面白い表現だなと思いました。

最後に一番印象に残ったことがあります。それは、題名に込められた意味です。桜良は遺書の最後に「君は嫌がるかもしれないけどさ。私はやっぱり。君の臍臓

を食べたい」と書いていました。主人公と桜良は互いにかけてがえのない相手、魅力的な相手だと思っていました。そして、お互いを尊敬し合っていました。だから私は、題名にもなっている「君の臍臓を食べたい」という桜良の言葉は、「あなたのようになりたい。」という意味を込めて書いたのではないかなと思いました。そしてこの、「君の臍臓を食べたい」というのは、桜良の秘密を知っている主人公と、桜良の特別な関係の中だけで意味の通じる言葉であり、二人のうちのしか伝わらない特別な言葉だったのだと思います。だからこそ桜良は、最後に主人公に「君の臍臓を食べたい。」という言葉を伝えたかったんだと思います。

私は、この本を読んで少しだけ、今より前向きに生きられるようになった気がしたし、今までより「生きる」ということについて考える時間が増えたと思います

す。桜良は他の人より死というものが近かったからこそ生きる意味をしっかりと見つけ、それをとても大切にしていました。私も、自分なりに探し出して大切にしたいなと思いました。この本で学んだことを、これからの人生で生かしていくことができたらいいなと思います。

読んだ本「君の臍臓を食べたい」

銀賞

夢を叶えるために大切なこと

日南学園中学校 一年 狩俣 あい梨

「世界一になりたい人は、この本を読んでくださ

い。」という本の最初の言葉に、この本には、どんな世界一になる方法が書かれているんだろうと、興味をもちました。

この本の主人公は、何度も試練を乗り越えて、夢だった世界一のパティシエになりました。私も、将来卓球で、多くの実績を残して活躍する、という夢があるので、共感する所がたくさんありました。

主人公のヒロは、「紅屋」という和菓子屋で生まれ育ちました。小学校三年生の時に、和菓子以外のスイーツのケーキを初めて食べ、そのおいしさに感動して、

世界一のパティシエになると決めました。

高校三年生になったヒロは、東京に出て修業をしようと決めていましたが、紅屋が倒産して、パティシエをあきらめる場面に立たされてしまいます。

でも、紅屋が倒産してもヒロは夢をあきらめず、前に進んでいく、というところが心に残っています。私は両親の仕事がなくなり、自分の家がなくなるということを考えてみました。おそらくそれは、とてもショックなことだし、自分の行き場がないという不安で、怖いことだと思います。そんな中でも、ヒロはパティシエになるという夢をあきらめませんでした。それは誰でも簡単に出来ることではないと思います。そんなヒロの勇氣に、私はとても感動しました。

私には、もう一つ心に残ったことがあります。それは言葉です。それは父から伝えられた、言葉という名

の刀です。初めヒロはこの刀をどうやって使うのか分
かりませんでした。後々、この刀は自分の人生を切
り開いていくための刀だと知ります。ヒロはその刀の
おかげで、夢に向かう勇気が出たと思います。実は、
私もヒロのように、人生を大きく変える決断をしまし
た。それは、親の元を離れて日南学園中に入学する、
という決断です。最初は親からも反対されていたし、
行くかどうか迷い、行ったとしてもその後の事を考
えると、不安で一杯でした。しかし、たまたま手に取
った本の言葉によって、私の迷いは無くなりました。
それは、「運命は決めない、決めるのは自分。」という
言葉です。それを見た時、最終的に決めるのは自分な
んだと思い、親の元を離れる決意をしました。だから
後悔はないし、毎日、楽しく頑張っています。

私はこの本で学んだことが二つあります。一つ目

は、夢を叶えるために、何をやったら夢に近づけるの
か、自分の頭で考えて、行動に移すことです。ヒロは
ケーキの技術だけでなく、審査員の視点からもケーキ
を作ったりして、一つのケーキ作りに、多くの方法を
考え、取り入れました。私は、卓球での目標は自分で
戦術や作戦を立ててねばり強く勝つ、ということなの
で、ヒロの考えがとても参考になりました。私も試合
で力が発揮できるように練習から戦術を考え、作戦を
立てて行こうと思いました。卓球とケーキは違うけ
ど、考え方は同じなんだと共感しました。

二つ目は、素直に聞く、ということ。ヒロは世
界一になるために、たくさんの方のアドバイスを言葉
を聞いて、自分を成長させていました。私はイライラ
していると他の人の話を聞けなくなることがありま
す。自分の感情をコントロールしながら聞くことの大切

切さをヒロの行動から学びました。アドバイスはその時に聞かないと、二回目はありません。そんな時に自分の感情に流されて聞けなくなるのは残念です。だから私もヒロのように、周りの人からたくさん吸収して成長する所を、見習いたいと思いました。

最後に私はこの本を通して、ヒロのように自分の好きな夢を叶えたいと思いました。この本にはヒロの幼少期のことから大人になるまでのヒロの人生が書かれています。決して幸せなことばかりではなかったと思います。私が一生懸命、前に進むヒロを見て、私もヒロのように自分の夢を叶えたいと思います。私は将来卓球で多くの実績を残して、活躍するというのが夢ですが、そのために今、何をしなければいけないのか、とても考えさせられる本でした。私はこの本を何度も読んでいますが、毎回読む度に、新しい発見をします。

考えることの大切さ、楽しさをこの本から学ぶことができました。この本から学んだことをいかして、卓球の試合では、今、何をすべきかよく考え、周りのアドバイスを素直に受け止めることの大切さを胸に、力を発揮し勝ちたいと思います。自分の夢を叶えられるように精一杯頑張っていこうと思っています。

読んだ本「スーパーパティシエ物語」

銅賞

「本当の幸せとは何か」

日南学園中学校 二年 齊藤 咲花

本当の幸せとは何か。それは、家族がいること、財産があること、友達がたくさんいること、おいしいご飯を食べること、全て言うときりがありませんがそれぞれの幸せがあると思います。この本の主人公は、お金があることが本当の幸せと思っています。そんな主人公がなぞの老人と出会い、考え方が変わる話です。この物語は、中国の小説をもとにして、芥川龍之介が創作した物語です。

さて、物語の舞台は唐の都、洛陽。この洛陽は大都市で、往来はひっきりなく人や車であふれています。しかし、杜子春という男は洛陽の門前で途方に暮

れていました。にぎわっている都と裏腹に、杜子春はその日の暮らしも困るほどの身になっていました。元は金持ちの息子でしたが、財産を費い尽してしまったのです。ぼんやり空を見ていると、老人が声をかけました。思わず杜子春は正直に身の上を話すと、老人は、

「今この夕日の中に立って、お前の影の頭の部分を掘ってみる。そうすると黄金が埋まっているはずだ。」と言いました。いつの間にか消えた老人を不思議に思いつつも、杜子春は都一のお金持ちになっていました。しかし、毎日ぜいたくをしていたため、お金は二年で尽き、友達も離れていきました。再び途方に暮れていると、また老人が声をかけてきました。老人はまた黄金のありかを教えてきます。しかし、杜子春はまた二年で使い果たしてしまいました。三度目、またた

たずんでいると、やっぱり老人が話しかけてきました。黄金のありかを教えようとする老人の言葉を手を挙げさえぎります。そして、人間に嫌気がさした杜子春は老人に弟子入りをお願いしました。今まで話をしていたなぞの老人が実は仙人だったのです。老人につられ、峨眉山で仙人になるための修行を始めます。

「何があっても一言もしゃべらなければ仙人にしてやろう。」

という条件のもと、杜子春の目の前には、様々な幻覚が現れます。仙人になるため、どれだけ叱りつけられても、虎か蛇かに殺されそうになっても、神将の槍に突かれても決して杜子春は声を出しませんでした。地ごくのエンマ大王の前に引きずり出され、様々なごう問をうけます。それでも杜子春は、じっと歯を食いしばって耐え続けました。しかし、馬の姿になった両親

が連れてこられ、目の前でむち打ちされていることに動ようしてしまいます。かすかな声で、

「私たちのことは気にしないで。幸せになりなさい。」
と言う母に、思わず、

「お母さん。」

と杜子春は叫んでしまいました。仙人の修行は失敗してしまっただけで、人間らしさを守れたことに杜子春は喜びを感じていました。それを見た老人は、一軒の家と畑を与えると、杜子春の前から姿を消しました。

私はこの物語を読み、私なりに考えた部分が二つあります。

一つ目は、何で仙人になろうとしていたのか、です。作中に、「人間というものに愛想がつかた」と杜子春は言っていました。お金があるときは友達が周りにいて、無いときには誰もいないことに気付いたのでは

ないかと思えます。お金があると結局不幸になると考えた杜子春は、お金の振り回されることのない仙人という生き方にあこがれたのだと私は思います。

二つ目は、どうして修行を中断したのか、です。それは、周りの人と両親に大きな違いがあったからです。周りは、お金がないと離れていくけれど、両親は自分が苦しくても、杜子春の幸せを願いました。両親のありがたさが心にしみて、思わず叫んでしまったのだと思えます。

国語の授業でもあるように、大事なのはこの話が何を伝えたいか、だと思えます。私が思うのは、題名にした通り、「本当の幸せとは何か」だと思います。杜子春は初め、お金があることだと思っていました。老人と出会い、「思いやり」を持つことが本当の幸せにながっていると感じました。そして、「人間らしい、正

直なくらし」をすると老人に宣言していました。つまり、この物語の伝えたいことは、思いやりにあふれている人生が本当の幸せという事だと思えます。

私も、杜子春のように人間らしく、正直に生きようと思えます。この本の他にまだまだ面白そうな本があったので、その本も読んでみようと思えました。

読んだ本「杜子春」

読書感想文入選作品名一覧

小学校一年生

ペネロペあいさつできるかな

油津小学校 かい あやな

小学校二年生

「みえるとかみえないとか」を読んで

桜ヶ丘小学校 鈴木 椀乃

「ながーい5分みじかい5分」

北郷小中学校 甲田 迅

小学校三年生

大切にしたい平和な町

南郷小学校 田中 絢人

なにがあってもずっといつしよ

大堂津小学校 森 滯奈

小学校五年生

わたしがいいと思う本

鴻上小学校 緒方 鈴来

殺しよ分ゼロを願って

油津小学校 植村 奏音

小学校六年生

みんなとちがう

榎原小学校 星野 楓花

中学校

西の魔女がくれた言葉

飢肥中学校 一年 河野 結音

ライオンのおやつを読んで

飢肥中学校 三年 藤井 颯太

読書感想画入賞作品

【小学校一年生の部】

読んだ本「くまくまパン」

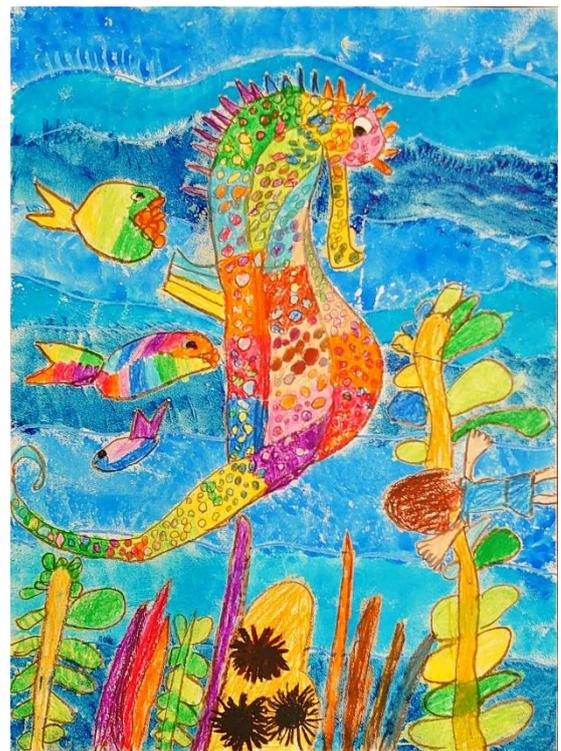


金賞 鶴戸小中学校 濱田一華



銅賞

桜ヶ丘小学校 藤本友美
読んだ本「まほうのさんぽみち」



銀賞

細田小学校 森雫月
読んだ本
「とうさんはタツノオトシゴ」

【小学校二年生の部】

読んだ本「どんぐりむらのぼうし屋さん」



金賞 鶴戸小中学校 坂元海音



銅賞

吾田東小学校 川崎央稀
読んだ本「エルマーのぼうけん」



銀賞

細田小学校 楠原幸歩
読んだ本「まゆとおに」

【小学校三年生の部】



読んだ本「いなばのしろうさぎ」

金賞 北郷小中学校 中津凜星



銅賞

南郷小学校 岩切姫花
読んだ本「やんばるの少年」



銀賞

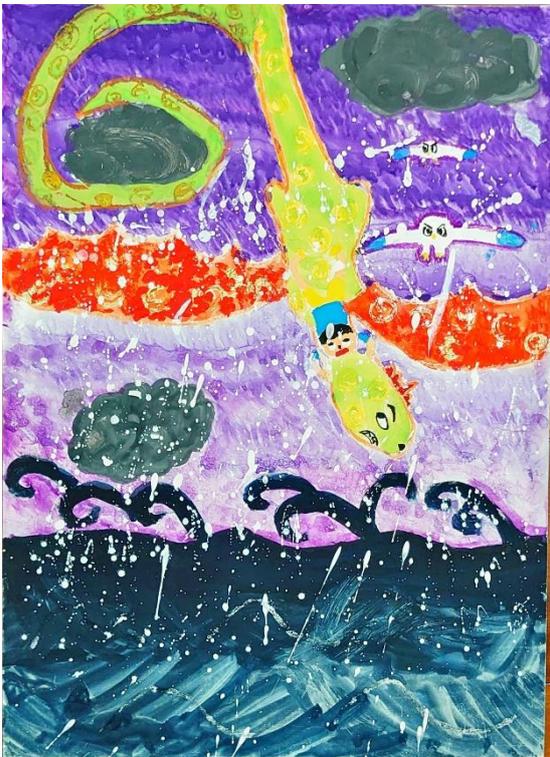
吾田東小学校 佐渡銀星
読んだ本「ブレーメンのおんがくたい」

【小学校四年生の部】



読んだ本「赤毛のアン」

金賞 飢肥小学校 川添佑珠



銅賞

潟上小学校 大田川遙希
読んだ本「エルマーとりゅう」



銀賞

鶴戸小中学校 中原咲和
読んだ本「ヤマネコとウミネコ」

読んだ本「きょうしつはおばけがいっぱい」



【小学校五年生の部】

金賞 飢肥小学校 鬼束凜音



銅賞

吾田小学校 後藤彩綾

読んだ本「あぐり☆サイエンスクラブ：春」



銀賞

飢肥小学校 甲斐凜和

読んだ本「十五少年漂流記」

【小学校六年生の部】

読んだ本「チョコレート工場秘密」



金賞 飢肥小学校 田原実奈

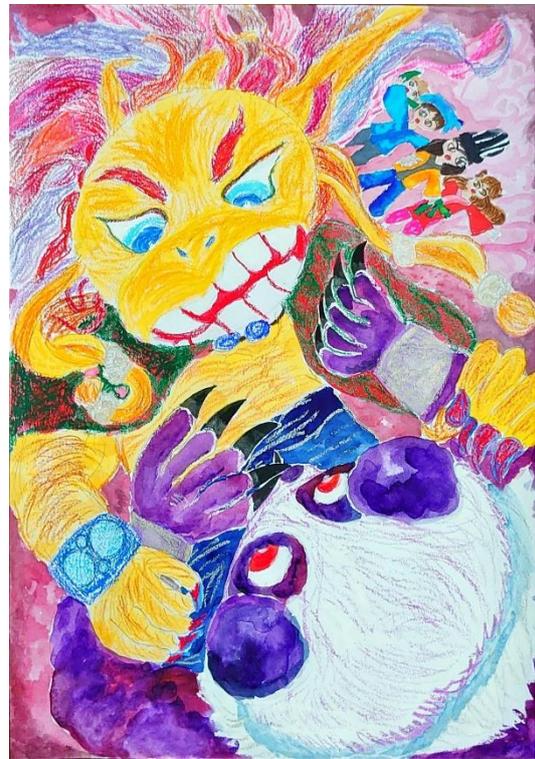


銅賞

酒谷小学校 中村美貴

読んだ本

「テレビのむこうの謎の国」



銀賞

飢肥小学校 石山将

読んだ本「炎の風吹け妖怪大戦」

読書感想画入選作品名一覧

小学校一年生

ノラネコぐんだんきしゃぽっぽ
鵜戸小中学校 長友 優輔
まほうのさんぽみち
飢肥小学校 久嶋 幸羽

小学校四年生

ひまわり畑
吾田小学校 安田 汐里
こいしがどしん
大堂津小学校 松田 莉空

小学校二年生

ないしよのオリンピックク
瀧上小学校 杉本 心美
なんにでもレナール
吾田東小学校 竹下 奈々花

小学校五年生

ナンシー探偵事務所
鵜戸小中学校 塚本 あずき
みんなとちがうきみだけど
北郷小中学校 中津 勇仁

小学校三年生

はなちゃんのみそしる
吾田小学校 坂元 彩乃
きよだいなガチャガチャ
油津小学校 山下 胡桃

小学校六年生

まるかいて、ピョン
瀧上小学校 高山 奏賜
片耳の大シカ
瀧上小学校 加藤 梨愛

読書感想画の審査を終えて

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響で夏休みの期間が二週間程度でしたので、図書館の方々は読書感想画の作品が集まるかどうか心配したそうですが、日南市内の全ての小学校から、今回は昨年以上の二百十三点の色とりどりの作品が寄せられました。それらの作品からは、児童の皆さんのすばらしい本と出会いにより、本の世界に引き込まれ、物語に感動した様子を感ずることができました。

審査は、小学一年生から学年ごとに行い、物語から得た感動や感じた魅力が絵画の作品としてしっかりと表現されているか等を観点に、金賞、銀賞、銅賞、入選の作品を選びました。

自分が本から得た感動や感じた魅力などを視覚的に画面に表現するのは、とても難しいことです。入賞、入選した作品は、構図の工夫や技法の効果的な使用などにより、児童のその物語に対する思いが上手に表現されていました。

どのような表現がされていたのか、今回審査した作品での構図や技法の工夫などを、いくつか紹介します。

構図としては、前景と中景、遠景を描いて奥行を表現していたり、上から見下ろしたり下から見上げたりするなどの視点の工夫がされているものもありました。

着彩の際の技法としては、混色では、色むらができるように色を作って色面に微妙な変化をつけたり、純色に灰色を混ぜて日本の伝統色のような色使いをしたりするなどの工夫が見られました。

また、色面等の構成では、同系色または反対色を組み合わせて画面全体の雰囲気を作ったり、画面の中で色や形を少しずつ変化させて、グラデーションを感じさせたりするような作品もありました。さらに、絵肌の工夫として、スポンジなどの筆以外のものでも絵の具をつけたり、絵の具とクレヨンなどを併用するなどして質感の違いや明暗などを表現したりする工夫をしている作品も見られました。

このように、構図の工夫や効果的な技法の使用を行うことで、物語から得た感情をうまく画面に表現することができていました。

今回、入賞、入選された児童の皆さんに、心からお祝いを申し上げます。また、これからも、児童の皆さんがすばらしい本と出会い、本から様々なことを学ぶとともに、本から感じ取った魅力を画用紙に表現してほしいと思います。

来年度もすばらしい作品と出会えることを楽しみしています。

鵜戸小中学校 校長 梅野 浩一

審査員氏名一覧

益盛 浩志 榎原中学校

矢野根 育代 南郷小学校

東 嘉太郎 社会教育指導員

湯浅 安彦 社会教育指導員

大塚 昇 社会教育指導員

米良 照彦 社会教育指導員

榎木田 文生 社会教育指導員

都成 量 教育推進コーディネーター

梅野 浩一 鵜戸小中学校

三角 順子 飫肥小学校

令和2年度

日南市読書感想文・読書感想画コンクール入賞作品集

第12集

令和2年12月発行

発行 日南市教育委員会 生涯学習課

日南市中央通1丁目9番7号

編集 日南市教育委員会 生涯学習課図書館係

日南市飫肥2丁目6番18号

電話(0987)25-0158